倶多楽火山

○大正地獄の熱泥噴騰活動

大正地獄は，直径が約15m，深さが６ｍ以上，60ー70℃の熱水を流出する湯釜であった．この大正地獄において2007年５月２日夕刻から３日早朝の間に始まった熱泥噴騰活動は，規模や様相を変えながら，２年余りが経過した現在も継続している．

当初の噴騰活動は不規則で，４ー10日の休止の後，激しく噴騰し，100℃を超える熱水の流出を繰り返した．2007年10月11日ー12日には，流出口周辺が崩壊し，粒径数ミリの土砂を40mの範囲に飛散させる規模の大きな噴騰が起こった．

これ以降，噴騰は２ー４日ごとに繰り返されるようになった．同時に噴騰活動の継続時間は短くなり，噴騰の激しさも低下した．

2008年５月頃からは約１日間隔で噴騰活動が繰り返されるようになり，時折，休止期間が３ー４日になることもあった．このような規則的な噴騰活動は2008年11月末まで続いた．

この後，再び噴騰間隔は２ー4日となり，2009年２月５日には2007年９月末以来となる９日という長い休止期に続いて沼端から約10mの範囲にわたって細かい土砂を放出する噴騰活動も起こった．

この後は，細かい灰を含む飛沫を伴うものの穏やかな噴騰活動が続いている．

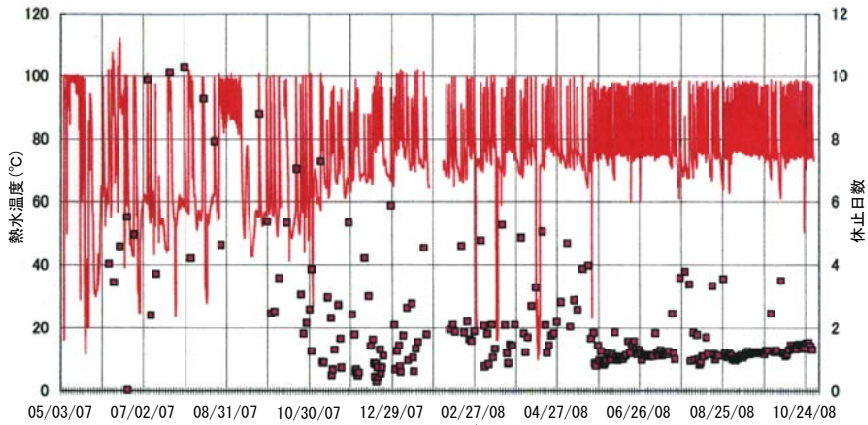
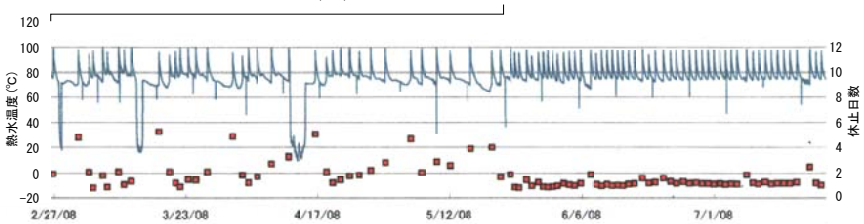
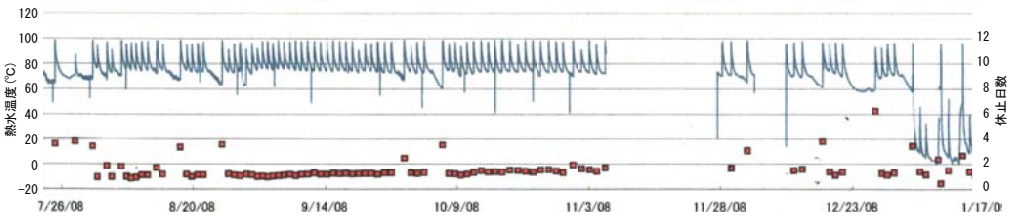


図１．噴騰活動が始まった2007年５月3日から2008年10月30日までの熱水温度の経時変化（赤線）および熱水温度変化から求めた噴騰活動休止期間(赤四角)の経時変化(安孫子)





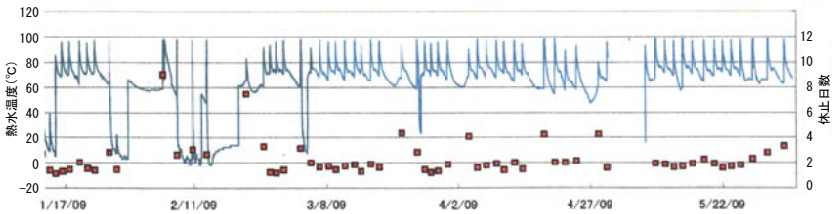


図２．噴騰活動が始まった2008年２月２日から現在までの熱水温度の経時変化（青線）および熱水温度変化から求めた噴騰活動休止期間(赤四角)の経時変化(安孫子)

（安孫子・大島）　　倶多楽火山